

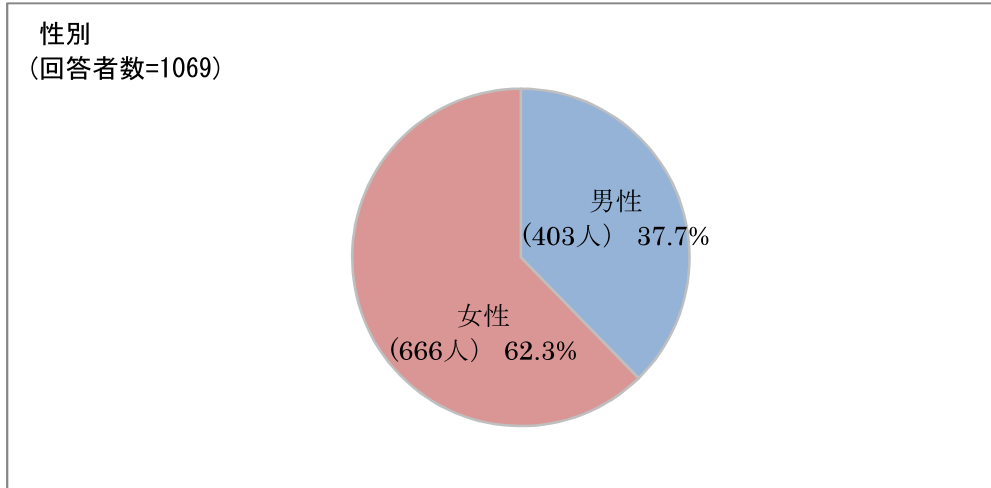
成田市インターネット市政モニター アンケート集計結果

第 93 回のテーマは「有機農業に関するアンケート」でした。

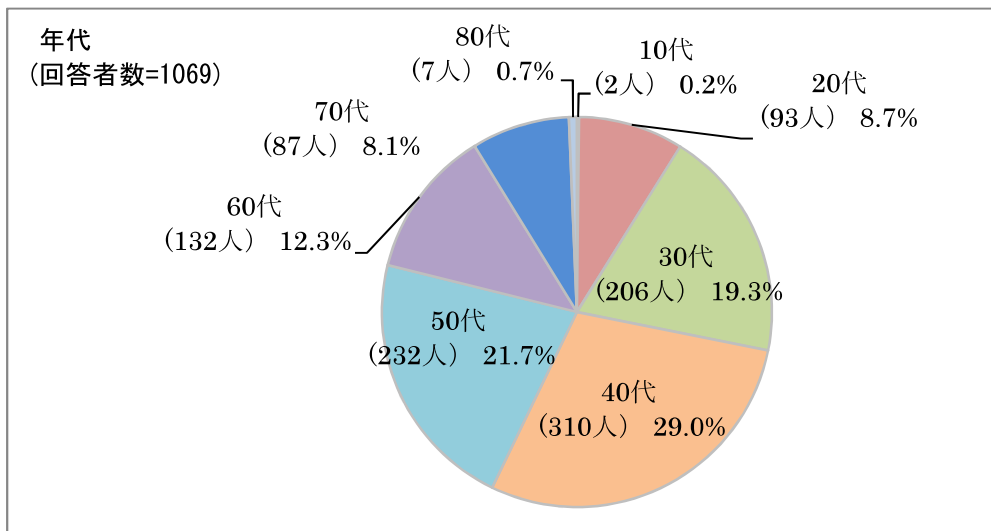
配信者数:1,453 人

実施期間:令和 5 年 11 月 17 日(金)~11 月 27 日(月)

回答者数(回答率):1,069 人(73.57%)



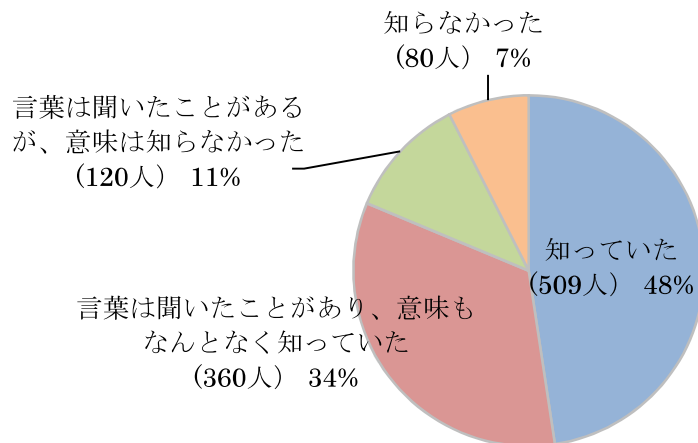
単一回答	人	%
全体	(1069)	
1 男性	403	37.7
2 女性	666	62.3



単一回答	人	%
全体	(1069)	
2 10代	2	0.2
3 20代	93	8.7
4 30代	206	19.3
5 40代	310	29.0
6 50代	232	21.7
7 60代	132	12.3
8 70代	87	8.1
9 80代	7	0.7

[Q1] 有機農業とは、化学的に合成された肥料や農薬を使用しない栽培方法のことですが、有機農業という言葉の意味を知っていましたか。

(回答者数=1069)



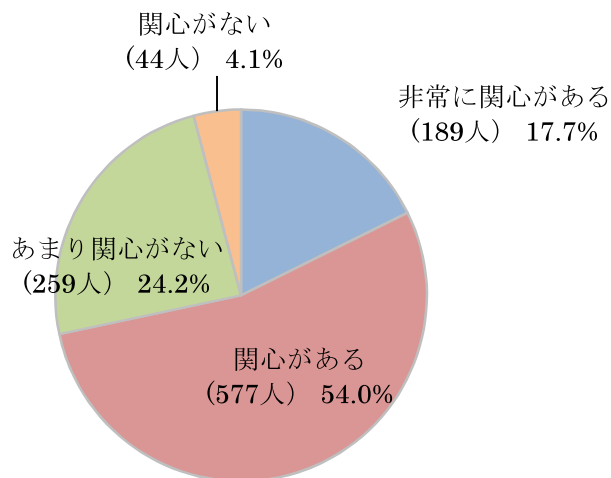
単一回答	人	%
全体	(1069)	
1 知っていた	509	47.6
2 言葉は聞いたことがあり、意味もなんとなく知っていた	360	33.7
3 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった	120	11.2
4 知らなかった	80	7.5

○「有機農業という言葉の意味を知っているか」の質問に対しては、「知っていた」、「言葉は聞いたことがあり、意味もなんとなく知っていた」と回答した方が約 80%である一方で、その他の約 20%の方より、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」、「知らなかった」と回答がありました。

この調査結果より、約 20%の方は有機農業という言葉の意味について知らなかったということが分かりましたので、有機農業の意味について、広く周知する必要があることがわかりました。

[Q2] 有機農業により生産される農産物（以下「有機農産物」という。）に関心がありますか。

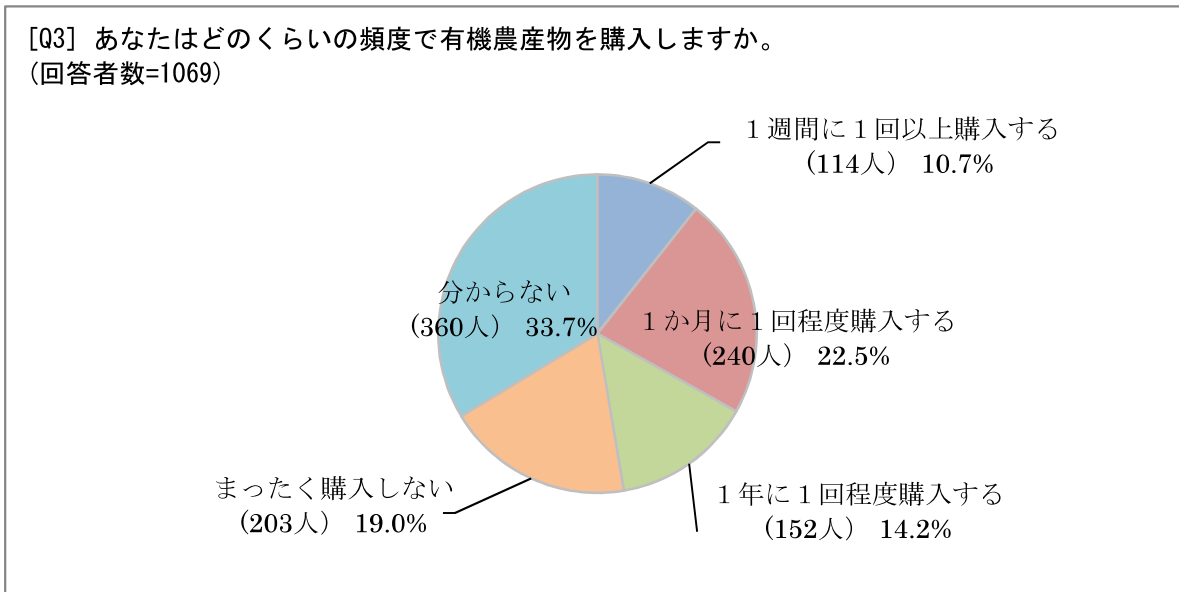
(回答者数=1069)



単一回答	人	%
全体	(1069)	
1 非常に興味がある	189	17.7
2 興味がある	577	54.0
3 あまり興味がない	259	24.2
4 興味がない	44	4.1

○「有機農産物に興味があるか」の質問に対しては、「非常に興味がある」、「興味がある」と回答した方が約 70%である一方で、その他の約 30%の方が、「あまり興味がない」、「興味がない」と回答がありました。

この調査結果より、約 30%の方は有機農産物に興味がないということが分かりましたので、より多くの方に関心をもってもらえるよう、有機農産物の魅力や特徴などについてPRする必要があることがわかりました。

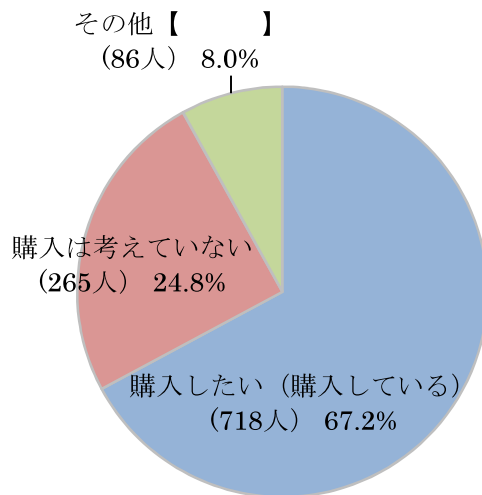


単一回答	人	%
全体	(1069)	
1 1週間に1回以上購入する	114	10.7
2 1か月に1回程度購入する	240	22.5
3 1年に1回程度購入する	152	14.2
4 まったく購入しない	203	19.0
5 分からない	360	33.7

○どのくらいの頻度で有機農産物を購入するかの質問に対しては、購入すると回答した方が約 50%であり、そのうち約 10%の方は「1週間に1回以上購入する」という結果となりました。

Q2の結果より、有機農産物に興味があると回答した方が 70%である一方で、購入すると回答した方が約 50%であることから、約 20%の方は、関心はあるが購入したことはない、ということがわかりました。

[Q4] 今後、有機農産物を購入したいと思いますか。
(回答者数=1069)



単一回答	人	%
全体	(1069)	
1 購入したい (購入している)	718	67.2
2 購入は考えていない	265	24.8
3 その他【 】	86	8.0

その他【 】

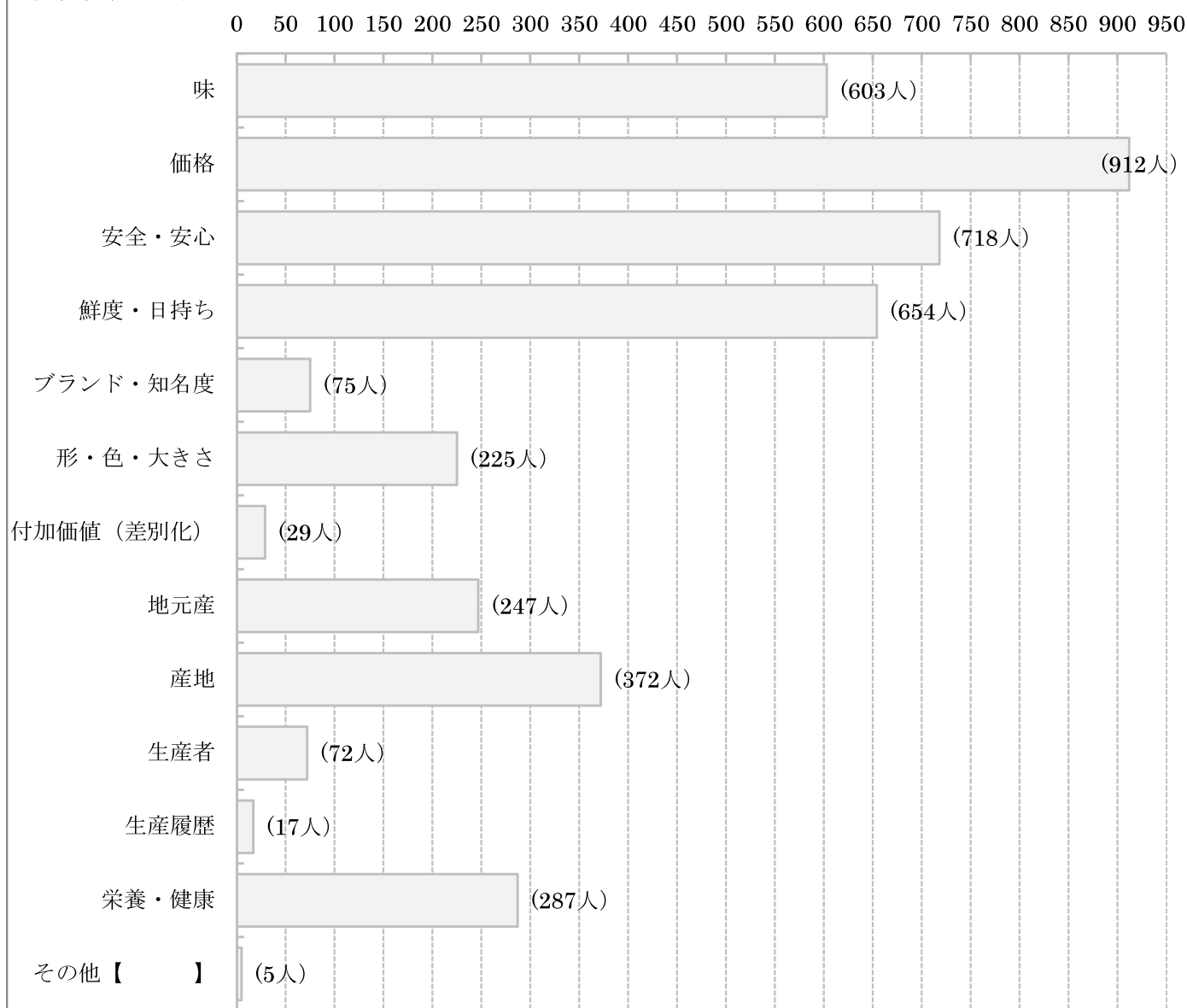
- こだわっていない
- 価格や品質によっては検討したい

○有機農産物を購入したいかの質問に対しては、「購入したい(購入している)」と回答した方が約70%、その他の約30%の方より、「購入は考えていない」、「その他」と回答がありました。

Q3の結果より、購入すると回答した方が約50%であったことから、「購入したい(購入している)」と回答した方のうち、約20%は新たに購入を検討していることが分かりました。

[Q5] 食品を選ぶ場合は何を判断基準にしていますか。

(回答者数=1069)



複数回答	人	%
全体	(1069)	
1 味	603	56.4
2 価格	912	85.3
3 安全・安心	718	67.2
4 鮮度・日持ち	654	61.2
5 ブランド・知名度	75	7.0
6 形・色・大きさ	225	21.0
7 付加価値 (差別化)	29	2.7
8 地元産	247	23.1
9 産地	372	34.8
10 生産者	72	6.7
11 生産履歴	17	1.6
12 栄養・健康	287	26.8
13 その他【 】	5	0.5

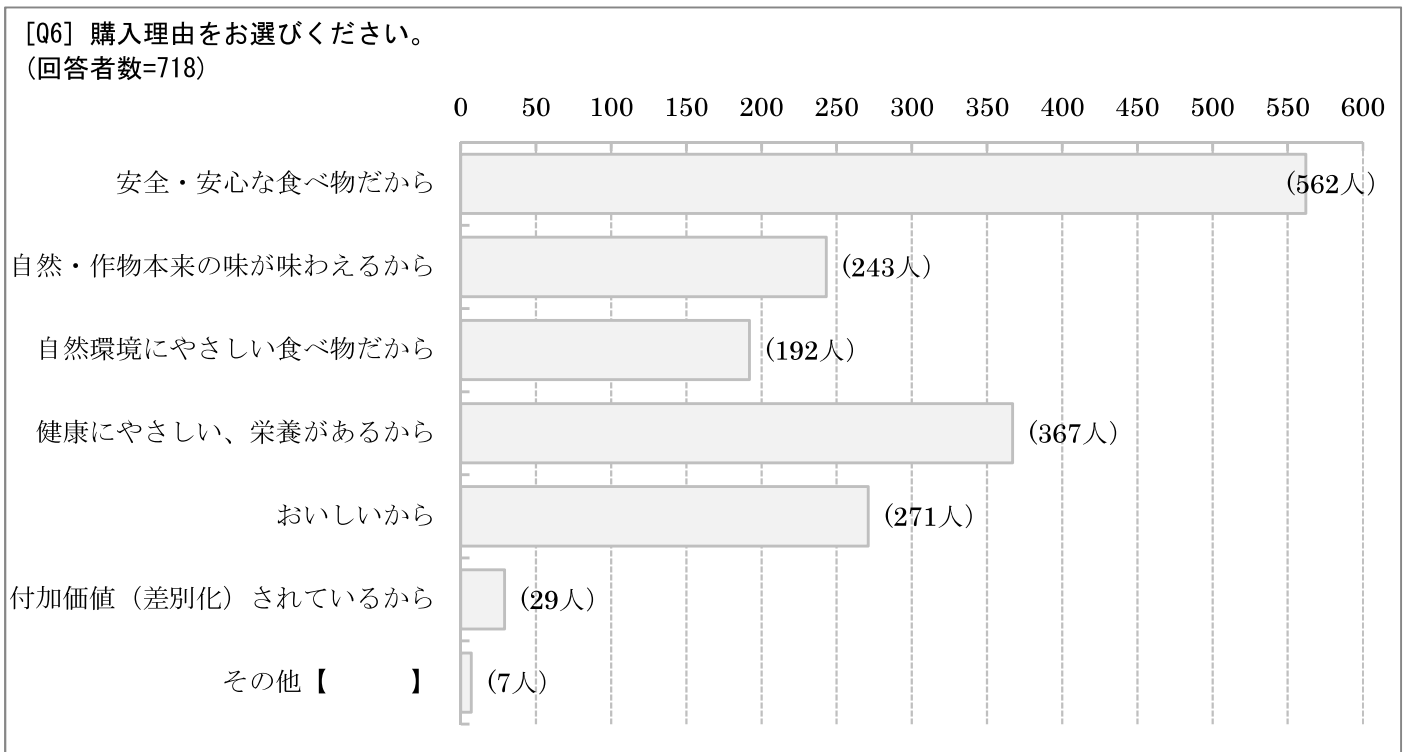
その他【 】

- その時の旬のものかどうか
- 国産、旬の素材かどうか
- 可能な限り国産品を選択しています。

- 農薬不使用、若しくは、極めて少量の使用の農産物
- 鮮度

○「食品を選ぶ場合の判断基準は」の質問に対しては、「価格」が最も多く、続いて、「安全・安心」、「鮮度・日持ち」、「味」などの回答がありました。一方で、「生産履歴」が最も少なく、「ブランド・地名度」、「付加価値(差別化)」、「生産者」については、10%以下の回答となりました。

有機農産物について、「価格」や「安全・安心」、「鮮度・日持ち」、「味」などの特徴をPRすることが、有機農産物の普及に重要であるとわかりました。



複数回答	人	%
全体	(718)	
1 安全・安心な食べ物だから	562	78.3
2 自然・作物本来の味が味わえるから	243	33.8
3 自然環境にやさしい食べ物だから	192	26.7
4 健康にやさしい、栄養があるから	367	51.1
5 おいしいから	271	37.7
6 付加価値(差別化)されているから	29	4.0
7 その他【 】	7	1.0

その他【 】

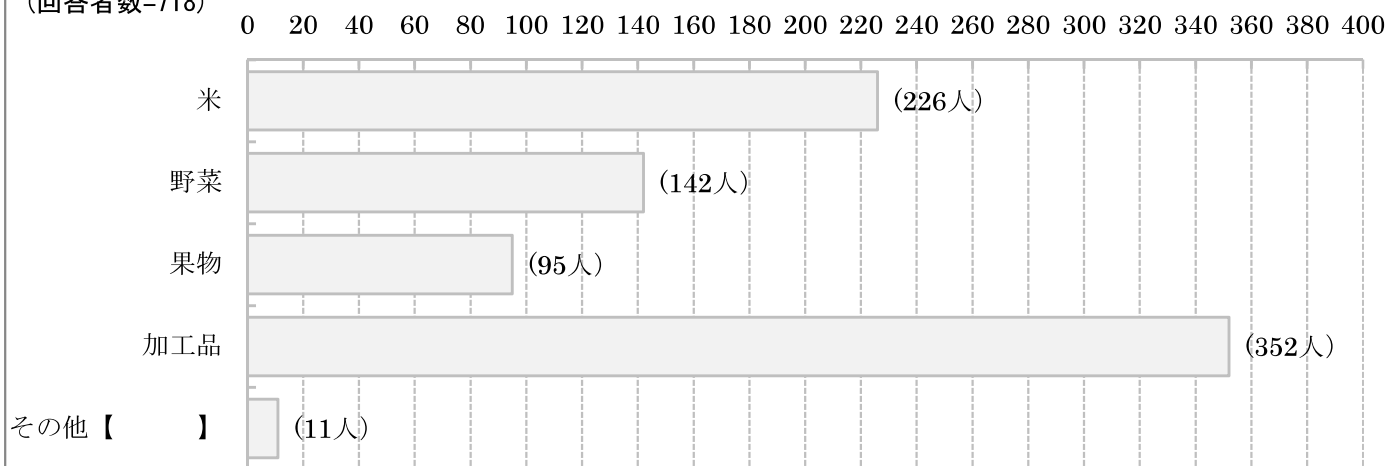
- 地産地消のため
- 生産者を応援したい
- 金額が安いから

○「有機農産物の購入理由は」の質問に対しては、「安全・安心な食べ物だから」が約 80%と最も多く、続いて、「健康にやさしい、栄養があるから」が約 50%となりました。

この調査結果より、有機農産物の購入理由には安全・安心な食べ物を求める意見が多いことがわかりましたので、より効果的な有機農産物のPRに活用してまいります。

[Q7] どのような有機農産物を購入したいですか（購入したいですか）。

(回答者数=718)



複数回答	人	%
全体	(718)	
1 米	226	31.5
2 野菜	142	19.8
3 果物	95	13.2
4 加工品	352	49.0
5 その他【 】	11	1.5

その他【 】

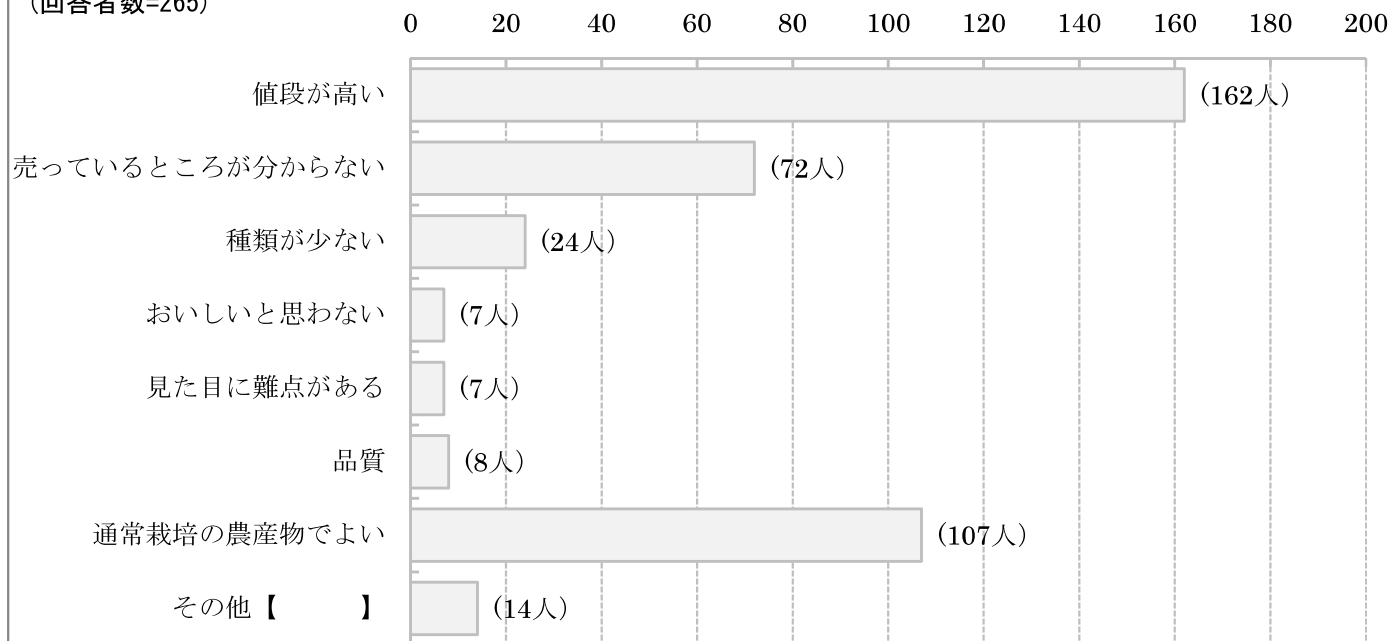
- 全て確認している

○「どのような有機農産物を購入したいか」の質問に対しては、「加工品」が最も多く、「野菜」や「果物」については、20%以下の回答となりました。

この調査結果より、有機農産物の販売促進にあたっては、加工して販売することも有効であるとわかりました。

[Q8] 有機農産物の購入を考えていない理由をお選びください。

(回答者数=265)



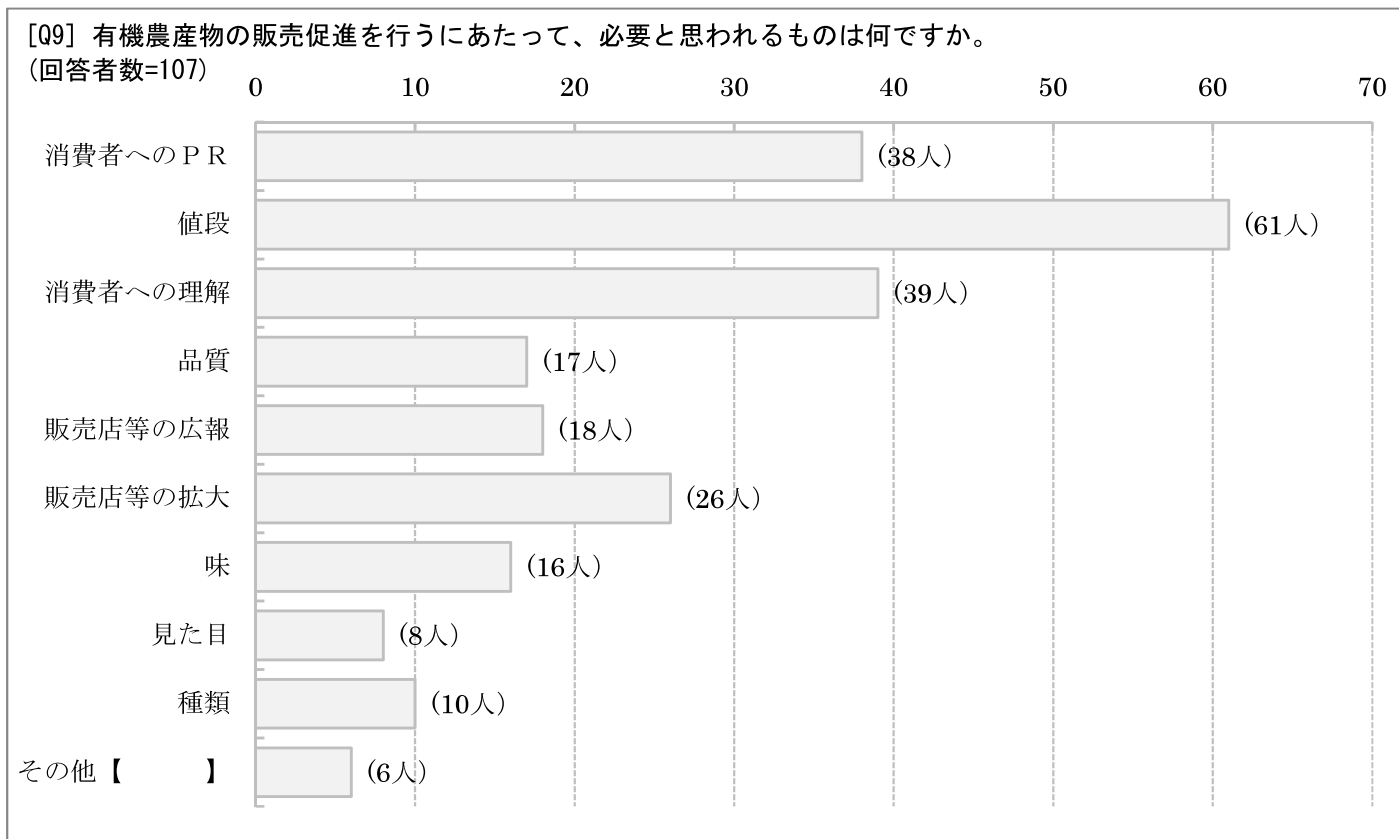
複数回答	人	%
全体	(265)	
1 値段が高い	162	61.1
2 売っているところがない	72	27.2
3 種類が少ない	24	9.1
4 おいしいと思わない	7	2.6
5 見た目に難点がある	7	2.6
6 品質	8	3.0
7 通常栽培の農産物でよい	107	40.4
8 その他【 】	14	5.3

その他【 】

- 農業を知らない奴が有機農業を語ってる。生産性をあげるには、化学肥料、農薬は必要だと思っている
- 自家栽培の野菜が多いから
- そもそも料理しない
- 有機農産物とそうでない農産物の差異がどれほどあるのか疑問に思っている。
- 有機農産物の方が体に良いし食べたいが、虫がついているのがどうしても苦手で手に取る勇気がない
- わからない

○「有機農産物の購入を考えていない理由は」の質問に対しては、「値段が高い」が約 60%と最も多く、続いて、「通常栽培の農産物でよい」が約 50%となりました。

Q5 の結果より、食品を選ぶ場合の判断基準は「価格」が最も重要視されていることから、このような回答結果となったことが推測されます。



複数回答		人	%
全体		(107)	
1	消費者へのPR	38	35.5
2	値段	61	57.0
3	消費者への理解	39	36.4
4	品質	17	15.9
5	販売店等の広報	18	16.8
6	販売店等の拡大	26	24.3
7	味	16	15.0
8	見た目	8	7.5
9	種類	10	9.3
10	その他【 】	6	5.6

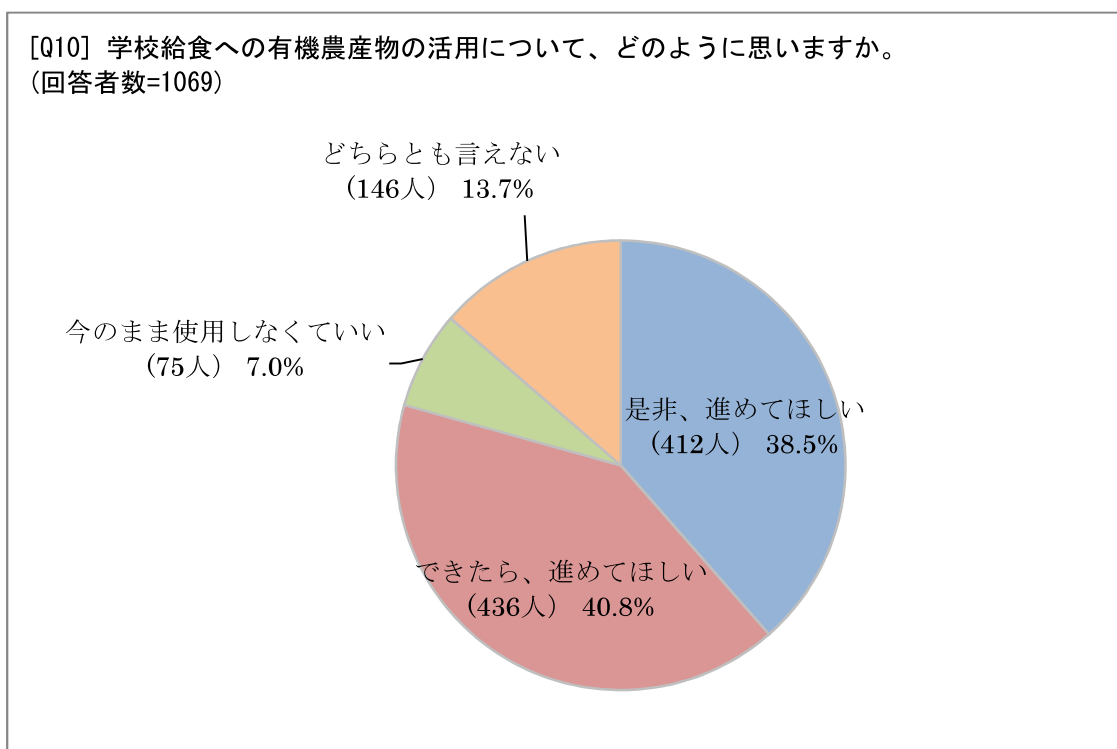
その他【 】

- 必要ない
- わからない
- 虫の混入を防ぐこと

○「有機農産物の販売促進のために必要なものは」の質問に対しては、「値段」が最も多く、続いて、「消費者への理解」、「消費者へのPR」などの回答がありました。

Q8の結果より、有機農産物の購入を考えていない理由は、「値段が高い」が最も多かったことから、このような回答結果となったことが推測されます。

また、「消費者への理解」や「消費者へのPR」の回答が、どちらも約40%だったことから、有機農産物のPRを積極的に行うことが重要であると分かりました。



単一回答		人	%
全体		(1069)	
1	是非、進めてほしい	412	38.5
2	できたら、進めてほしい	436	40.8
3	今のまま使用しなくていい	75	7.0
4	どちらとも言えない	146	13.7

○「学校給食への有機農産物の活用について、どのように思うか」の質問に対しては、「是非、進めてほしい」「できれば、進めてほしい」と回答したが約 80%である一方で、その他の約 20%の方が、「今のまま使用しなくていい」、「どちらとも言えない」との回答となりました。

Q11 その他、有機農業や有機農産物に関してご意見がありましたら、ご記入ください。

ご意見・ご要望については、市で確認をしておりますが、分量の関係から抜粋して掲載しております。

- 有機野菜とひと目で解る表示が目立つ販売。文字は大きく読みやすい方がありがたい。
- 有機野菜とそれ以外との違いがもっと一般的に理解できると分かりやすい。売り場で試食できるわけじゃないので、味以外のメリットなど写真やデータなどがあると分かりやすいかと思います。
- 有機野菜が売っている店がもっと増えると嬉しい。
- 有機農法は手間暇が掛かるが収穫量は若干減ると聞いています。とは言え、本物が求められる現代においては、まずは子供の時から取り入れるようにしてあげたい。給食費を公費で負担するのであれば、決して無駄な出費ではない。農業従事者が減り田畑が放置されてしまわないように、大規模農業の推進をぜひ行政が応援してあげると良いと考えています。有効な税金の使用です。それがうまく機能すれば、道の駅などで一般にも適正価格で販売可能になるはずです。
- 有機農法での食品は安心できると思うが、まだまだ、手頃な値段では無いため、誰にでも簡単に手に入る位の値段で販売出来るともっと大勢の人達が購入する、と思う。
- 有機農産物を推進しなくてもよいのでは。価格が高くなることに対するメリットがあまり感じられません。
- 有機農産物は比較的高価で一般家庭に負担になる。学食などの公の機関での消費を増やしていくことで、生産者の負担を抑え、生産コストを下げっていくことで、一般消費者が買いやすくして需要を増やす方法はないのだろうか？
- 有機農産物は体に良いのは間違いないが日々購入できるかという正直まだまだ値段が高いと思う、しかしながら農家の収入が上がるならば数点は意識的に購入していこうと思います。生産者、消費者共に満足度が上がるような取り組みを皆が考えることが望ましい
- 有機農産物が消費者に受け入れられるようPRしていくことが重要だと思う。防虫剤や除草剤などの減農薬にも注力して欲しい。
- 有機農業を推進してほしいし、それを頑張っている農家さんへ行政からの支援を充実させてほしい。今よりも安価で有機作物を手に入れられるようになると嬉しいです。
- 有機農業はイメージ先行で、決してそれが良いとは言えないと思っている。
- 有機農業の定義を知らないのが一番の理由です。その定義に合致する農産物があつたとして、本当に合致していることを知る事ができません。工業製品ならば工場に検査に行く政府の関係者がいて、ちゃんと検査できると思うけれど、例えば米の生産において一年間の中でどの時期に検査に行くかによって検査できる内容が異なるので、その検査結果に信頼性があるかがわかります。しかし農産物の場合は、自然の中での生産品なのでかなり難しいと思います。
- 有機農業のデメリットもちゃんと公表してほしい。
- 有機農業について、農薬を使わずに生産する技術を講習会などを通して広げていけたらいいと思います。興味を持っている人はたくさんいると思うので講習会などの機会が増えるといいと思います。
- 有機農業だけでは、綺麗な野菜は生産できないことを知ってほしい
- 有機栽培で、有機栽培でない農産物と同等以上(以下)の品質と価格が両立できるならその方が商品イメージは良いが、結局のところ自分は品質と価格で選んでしまうと思うので無理にすすめる必要性もあまり感じない。有機栽培だから特に美味しいと感じたことは、正直なところ一度もありません。
- 有機が正義で添加物や農薬は悪と言う風潮はどうかと思う。自然由来で身体に悪いものも沢山ある。科学的根拠のあるものを安全に適切使用することを否定して有機農法ばかりをもてはやす政策を考えているのであれば、それには明確に反対。

- 冒頭文にあったような目標を令和3年に政府が決定していたとは全く知らなかった。そもそも無理ではないのか。目標達成を補佐する施策を政府は行っているのか。他と同じく、ただ目標を掲げているだけではないのか。市として、何をどう実施しているのか全くわからない。給食で少しは取り上げていると思うが、もっと大々的に扱ってはどうか。
- 農業も盛んな成田市が、海外に向けて率先して農作物の安全性に力を入れていくことは大事な役割だと思います。
- 農家さんと一緒に収穫以外のことにも気軽に参加できる企画があったら楽しそう。有機に限らず農家さんが無人販売していたり、畑の近くに直売所を出してたりするのでそういう情報や地図があると嬉しい。
- 地産地消は、凄く大事なことだと思います。まずは、食育の一環で給食や幼稚園、保育園で提供してもらえるといいなと思います(支出は増えますが…)。できれば、子供たちには育てるところから始めると、食べる事だけでなく、農業自体にも興味を持ってもらえるのではないのでしょうか。あと、有機農業は素晴らしいのですが、どこで買えるのかがイマイチ分かりません。成田も道の駅などがあれば、そこに行ったら買えるとわかるのですが、買う場所も教えてくれると有難いです。成田産の野菜、応援していきたいです！
- 生産者が有機野菜を作ることは、労力に対して災害、病害虫や肥料の効果減などで収穫量が見込めないと言う点で、経営的に大きなリスクを負わねばならない。労力に見合った値段で売れば良いが、大都市の有機野菜を消費してくれる一部富裕層を除いてはそうはいかないのが現状ではないだろうか？日本は将来的に有機作物生産だけでなく、第一次産業の担い手が居なくなるであろう。当然有機作物生産も大切だが、人が生きるのに必要不可欠な食糧を生産している農業従事者減少に歯止めをかける施策が急務ではないだろうか！
- 成田市の有機農業が1%という事実に、びっくりしました。もっと多いかも、と思っていました。外食で有機野菜など望むことは不可能でしょうから、家庭での食材は有機農産物を使いたいと思います。安価で安全の有機農産物を願っています。
- 新鮮な野菜を常に購入したい…少し高くても良いので。
- 詳しくは知らないが、有機農業は難しいと聞いている。その分、価格にも反映されるだろうし、生産者の苦勞に見合う収益が無ければ持続できない。身体に良い物を食べたい気持ちはあるが、そういったハードルをどのように超えて行けるか、消費者からも難しい問題とを感じる。
- 消費者に対してのメリットがあまりピンとこないので、無機農産物との違い(味や健康への影響など)についてはっきりしたデータ等を調べようと思いました。
- 自分は農業に関しては、全く無知なので、偉そうなことは言えませんが、有機野菜作りは、手間はとつてもかかると思いますが、地球環境保護のためにも有機野菜をどんどん進めていただきたいと思います。手間がかかる分、価格が高くなるのは致し方ないのかも知れませんが、少しでも安くなれば、もっと利用する人も増えてくるのではと。自然保護、人々の健康のためにも、自然の美味しさ、体に優しい野菜の普及を切に望みます。
- 今、有機農業の面積が1%だけと言う事に驚きました。消費者の私達ももっと購入すればまた違ってくるのでしょうか、値段と売り場の少なさから改善していくしかないのでしょうか？最近、健康志向なので、皆関心あると思いますよ。
- 見映えが悪くても内容が良ければ購入する消費者はたくさんいます。そこにはある程度の価格範囲内で買えることが重要だけど、間違いなく消費者は有機農産物を求めているので成田市がうまくサポートして先駆けの街になってほしい。
- 学校給食は有機農産物を増やすのではなく、地域産の農産物を使うだけで良いと思う。
- 学校給食に有機農産物を使用することは、有機農業推進の後押しになると思うが、給食は安定供給が重要だし、手間暇がかかる農法にも関わらず人手が足りていない問題をどう解決していくのか。せっかく田畑面積も多い成田市なので、移住者含めもっと農業の魅力を若い世代にアピールしていけたらよいと思う。
- 学校給食で、子供たちに安心安全な食材を提供を望みます。公的なところ(学校、病院、公的施設)での食材を積極的に取り入れることは、農家にとっても安定した収入を得られ、農家への応援になると思います。
- 何事にもメリット、デメリットがあると思います。熱心に推す方を良く見ますが、おかしいと感じます。基準をクリアしたものは、有機でなくても存在して、利用して良いのですから。
- 化学肥料を使った農産物と有機農業による農産物の差異がどれ程のものなのかが理解できていない為、有機農業の推進ということには現時点では何とも言えない。有機農業の利点が生産性や価格差を上回るものならば、その点をアピール

していなければ理解は広まらないと考える。

- 一人暮らしの人はあまり気にしない気がしますが、家族のいる主婦層をターゲットにすると品質などにこだわってくれそうなので良いと思います。
- いわゆるオーガニック給食推進に対しては保護者として反対します。まず有機農産物では材料費が高くなり給食費の負担が増えます。有機農業も条件などが難しく市内で生産農家を十分に確保し持続可能な供給が期待できるのか疑問です。昨今のオーガニック給食を利用する政治的また宗教的な流れにも嫌悪感があります。有機農産物にこだわった給食にするよりも地産地消で新鮮なものを、妙なこだわりなくバランスよく、子どもたちにお腹いっぱい食べさせて欲しいです。
- SDGs、脱炭素社会の実現に向けては、地域循環型の社会システムを作り上げることが必要であり、有機農業の普及・有機農産物の需要拡大も重要な取組であると考えます。また、それらを支える一つの方策として学校給食への利用は有効と思います。